

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年5月31日現在

今月の重点活動

■主要野菜 今年度のGAP取り組み方針を決定

5月19日、岐阜市園芸振興会のだいこん部会・ほうれんそう部会、JAぎふえだまめ部会、岐阜市いちご部会は、GAP運営委員会を開催した。

JAから、今年度のGAP実践スケジュール及び組織体制の説明があり、農業普及課から、昨年度分の現地調査結果と今年度のGAPチェックリスト案などの提案を行った。出席した役員からは、点検項目の表現の修正や残った農薬の適正な処理方法、JAの廃プラ回収などについて意見・要望があった。

今後、農業普及課では、今回決定した35項目のGAPチェックリストにより実施する現地調査において、各項目の達成状況を確認し、GAPの取り組みを強化していく予定である。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝、川部 知)



【GAP運営委員会の様子】

活力ある新産地づくり

■アスパラガス 「はしま六幸市」で産地PR

JAぎふ羽島市アスパラ部会は、4月29日と5月3日、「はしま六幸市」において、羽島市産アスパラガスのPRイベントを開催し、即売会とアスパラドッグやスープ等の試食会を行った。

農業普及課は、部会員や市・JA担当者とともに、羽島市の産地PRを行うとともに、来場者に対するアンケート調査の実施について支援した。

農業普及課では、今回のアンケート調査結果を分析し、今後のPR活動や産地振興に繋げていく予定である。

(園芸産地支援第一係・三和浩一、松浦香絵)



【試食会の様子】

■ブロッコリー 春ブロッコリー目揃え会開催

JAぎふ西部地域春ブロッコリー研究会では、5月9日からの出荷開始を受けて、5月10日に目揃え会が行われ、実際の収穫物を見ながら、選別の徹底や出荷方法への注意喚起が図られた。

今年度は日中の気温が高く、例年に増して収穫が短期に集中することが予想され、農業普及課から、収穫時の注意点を説明し、適期収穫の徹底を図った。

5月20日現在、約600ケースの出荷があり、クレームも無く品質は上々である。出荷は、6月上旬まで続く見込みで、1,000ケース超えを目指している。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【目揃え会の様子】

多様な担い手づくり

■だいこん 若手生産者との意見交換会を開催

岐阜市園芸振興会だいこん部会は、5月9日、若手生産者との意見交換会を開催した。前回から半年以上が経過したこともあり、改めて若手生産者の意向確認を行うとともに、共同の洗浄選別施設整備に対する意見や今後の産地のあるべき姿などについて、意見交換を行った。

30歳代の生産者から、雇用を導入して規模拡大したいとの発言があったが、50・60歳代の生産者からは、量を出すことも大事だが、良い物を作らないと儲けが出ない、親が元気なうちに



【意見交換会の様子】

雇用を入れるなど対応が必要である等、厳しい意見も多く出た。

今後、農業普及課では、若手生産者との意見交換会などの開催を通じて、洗浄選別施設の整備や産地の活性化策などの支援を行っていく予定である。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝)

売れるブランドづくり

■小麦・大麦 赤かび病発病穂率調査と除草剤試験の検討

5月12～19日に、管内の小麦・大麦ほ場において、赤かび病発生調査を実施した。管内13カ所を調査した結果、発病穂率は1%以下と発生は少なかった。また、5月19日に、JA全農岐阜と連携し、イタリアンライグラスを主体とした難防除雑草の除草剤試験ほの巡回調査を実施した。

農業普及課では、今後除草剤試験の効果検証を行い、栽培暦への導入等普及性について検討する。(地域支援第三係・岡田隆史)



【除草剤試験ほ場】

■いちご ぎふ清流ハーフマラソンで岐阜いちごをPR

JAぎふ岐阜市いちご部会青年部は、5月15日に開催された第6回ぎふ清流ハーフマラソンにおいて、岐阜いちごのPR活動を実施した。この日のために、ヘタ取りした濃姫や美濃娘を総計370kg用意し、紙コップに3粒ずつ入れ、力走するランナーに手渡した。当PR活動は、今年で4年目となり、いちごの提供を楽しみにしているランナーも多く、好評であった。

農業普及課では、今後も、岐阜いちごのPRや消費拡大に繋がる活動を積極的に支援していく予定である。

(園芸産地支援第一係・三和浩一)



【岐阜いちご配布の様子】

住みよい農村づくり

■かき 岐阜市鳥獣被害対策の取り組み支援

岐阜市西秋沢円蔵洞地区では、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した防護柵を設置するため、5月9日に自治会、かき生産者代表、関係機関で打ち合わせ会議を開催し、現場状況を確認した。

同地区には約3.5haのかき団地があり、これまでイノシシやシカの獣害に悩まされてきた。かき生産者は、個々に防護柵を設置する等の対策をしてきたが、十分な効果が得られなかった。鳥獣被害対策は、集落ぐるみで取り組むことが重要なため、農業普及課では、かき生産者組織等とともに自治会等に働きかけてきたところ、地区全体に総延長1.5kmのワイヤーメッシュ柵を設置することについて、昨年度合意された。5月20日及び23日には、獣害防止柵の効果測定のための事前調査も実施した。

岐阜市北部にあるかき産地では、鳥獣被害に悩まされている地区が多いため、農業普及課では、同地区の活動を支援するとともに、その他地区への波及を念頭に普及活動を進める。

(園芸産地支援第二係・西垣 孝)



【関係機関と現場確認】

■体験プロジェクト 羽島体験プロジェクトイベントを開催

羽島体験プロジェクト実行委員会は、5月21日、餅つき・草餅づくり30人、いちご狩り60人を対象に、体験イベントを開催した。このプロジェクトは、「米づくりから酒づくりまで」をテーマに、毎年会員を募り、年間通して数回の体験イベントを開催している。

今回、農業普及課からは、いちご品種、いちご狩りの方法について説明しており、今後は、水稻の手植え体験、刈取り体験の支援を行うこととしている。(地域支援第二係・山田隆史)



【いちご狩り体験の様子】